

特別支援教育研究論文集

—平成30年度 特別支援教育研究助成事業—

研究協力：独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所

「特別支援学校のセンター的機能を担当する先生のための
小・中学校のタブレット端末活用に関するガイド」に基づいた
支援の実際的研究

長野県飯山養護学校

教諭 二村 俊

平成31年3月

公益財団法人 みずほ教育福祉財団

要旨

本研究は、筆者の二村が地域実践研究員として参画した国立特別支援教育総合研究所による平成 29 年度地域実践研究「教材教具の活用と評価に関する研究」の成果で得られた「特別支援学校のセンター的機能を担当する先生のための小・中学校のタブレット端末の活用に関するガイド」を使用した。実践事例の収集及び地域の実情に応じたガイドの有効性及び課題点を検討することを目的としたものである。

その結果、長野県飯水地区及び、長野県協力地域における実践事例を小学校、中学校合わせて 15 事例収集することができた。

得られた実践事例のタブレット端末活用の成果では、小・中学校からの主訴を分類整理した結果、読み書きが中心であることが分かった。この結果については、平成 29 年度の「教材教具の活用と評価に関する研究」の中でも述べられている。しかし、読み書きができないというだけではなく、学習への興味がもてなかったり、取り組みなかったりするものが含まれている。このことから、困難さを原因として読むことや書くことができないだけではなく、児童・生徒が読み書きにかかわる学習に対して、消極的であったり、抵抗感を示したりしていることが示唆された。ガイドを用いてタブレット端末を活用することを支援したことで、読み書きを代替し、学習への意欲向上に繋がった事例もあり、ガイドを用いたタブレット端末活用の有効性が示唆された。

ガイドを活用した項目は、ガイド③「読みの指導に対するタブレット端末の活用方法」、ガイド④「書きの指導に対するタブレット端末の活用方法」、ガイド⑤「数量の指導に対するタブレット端末の活用方法」の件数が多く挙げられていた。さらに、本研究において、小・中学校のニーズで高かったのは、ガイド②「タブレット端末の操作方法の指導」とガイド⑧「主体的・意欲的に取り組めるための工夫」の 2 点であった。これは、地域におけるニーズとして、小・中学校等においてタブレット端末等 I C T 機器が導入された段階にあり、児童・生徒の興味関心でタブレット端末を使うことや使い方等に関してのニーズがあることが原因だと考えられた。

15 事例を 5 つの分類整理項目でまとめた結果、ガイドの有効性と課題点が見えてきた。

ガイドを活用した有効性としては、以下の点が挙げられた。

巡回相談担当教師からは「ガイドがあることで、タブレット端末の支援を考えたときに参考になり、さらに安心して巡回相談を行うことができる」との意見があり、小・中学校の教師からは「タブレット端末等を活用する考えはもってなかったのに、ガイドを活用してアドバイスいただけたのは、新しい支援の方法を知ることができ、ありがたかった」との意見が挙がった。

ガイドを活用した課題点は、以下の点が挙げられた。

巡回相談担当教師からは「ガイドを使うが、アプリ名が分からない。」と意見があった。小・中学校の教師からは「アプリ名を教えてほしい」「〇〇を行うために、よいアプリはないですか？」などの意見が挙がった。その課題に対し本研究では、総合考察で述べるようにアプリに関する情報を整理した追加資料を併用し、アプリを紹介できる手立てを行った。しかし、アプリに関しては、日々変化更新されるため、ガイド⑨「先生のタブレット端末の活用に関する取り組み方」にもあるように、まずは教師が触って使ってみることもや情報を集めることが重要である。

本研究において調査した地域の実情としては、タブレット端末等 I C T 機器の導入段階であり、活用方法だけではなく、ガイドを用いた支援と共に、タブレット端末等を活用する必要性や周りの理解に関する研修会の場を設けるなど、タブレット端末等のみならず、特別支援教育の理解啓発の必要性も挙げられた。

キーワード：タブレット端末等 I C T 機器、特別支援教育コーディネーター、地域支援